

上尾国際教育センター 実践日本語 シラバス

教育目標

日本語教育の参照枠に基づき、生徒が多様な社会的場面において、必要な情報を収集・理解し、自らの考えを整理して論理的に表現するとともに、他者と協働しながら課題解決に取り組むことができる日本語運用能力を養うことを目的とする。

また、調査・分析・発表・レポート作成といった一連の言語活動を通して、進学および社会参加に必要な実践的コミュニケーション能力を育成する。

さらに、生徒が自ら課題を設定し、学習過程を振り返りながら主体的に学習を進める態度を養い、国際社会において自律的に行動できる基盤を形成する。

【実践日本語】

B 2 (上級 3)	テキスト	・タスクベースで学ぶ日本語 中級 3
---------------	------	--------------------

到達目標 (Can-do)

1. 社会的なテーマについて、必要な情報を収集し、内容を理解することができる。
2. 複数の情報を整理・比較し、自分の意見を論理的にまとめることができる。
3. 目的や聞き手に応じて、構成を工夫しながら分かりやすく発表することができる。
4. 他者の発表内容を理解し、適切に質問・応答を行うことができる。
5. 調査内容について、根拠を示しながらまとまりのあるレポートを書くことができる。
6. 課題解決に向けて他者と協働し、意見交換や調整を行うことができる。
7. 自らの学習を振り返り、課題を把握して次の学習に生かすことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	語彙・文法・表現を適切に使い、情報理解および表現ができている。	情報を収集・整理・分析し、根拠を示しながら論理的に構成された発表および文章で表現できている。	課題に主体的に取り組み、振り返りを通して自らの学習を改善しようとしている。

学習方法

1. タスクベースの学習を中心とし、実際の社会的場面を想定した課題に取り組む。
2. ペア・グループ活動を通して、情報共有や意見交換を行い、協働的に課題を解決する。
3. 情報収集、分析、意見形成、発表、レポート作成までの一連の活動を行う。
4. 発表活動では ICT（スライド等）を活用し、伝達力の向上を図る。
5. ポートフォリオを活用し、学習過程と成果を記録・整理する。
6. 自己評価および他者評価を取り入れ、学習の振り返りを行う。
7. 教員はファシリテーターとして学習者の主体的な学びを支援する。

シラバス（180 単位時間の学習計画）

〈週 20 単位時間〉

学習内容・項目	学習のポイントと到達点	評価および学習支援
1. L1～L3（タスク学習前半：基礎的なタスク遂行能力の形成段階） 2. L4～L7（タスク学習後半：論理的表現および発表に向けた発展段階） 3. やりとり・発表・作文における到達度確認 4. プロジェクト準備 テーマ設定・情報収集・分析・構成作成 5. プロジェクト発表 発表・質疑応答 6. 総合的運用力の確認（プロジェクトレポート・N2 模擬試験） 7. ポートフォリオ 振り返り・自己評価	・社会的テーマに関する情報を理解し、自分の考えを簡潔に表現し、意見交換や短い発表を行うことができる。 ・基本的なタスク遂行能力を身につける。 ・複数の情報を整理・分析し、根拠を示しながら論理的に意見を述べることができる。発表に向けた構成力を高める。 ・テキストに基づくタスクを通して、やりとり・発表・作文における到達度を確認する。 ・調査目的を明確にし、必要な情報を収集・整理し、発表・レポートの構成を作成することができる。 ・調査内容と考察を整理し、分かりやすく発表するとともに、質疑応答に適切に対応することができる。 ・総合的な日本語運用能力（理解・表現）を確認する。 ・学習過程と成果を振り返り、自らの課題を把握し、今後の学習に生かすことができる。	・授業内活動の観察、提出課題、教員によるフィードバック ・発表練習、課題提出、ルーブリックによる評価 ・ルーブリック評価・他者評価・教員評価による到達度の測定・進捗確認、個別指導、フィードバック ・発表評価（ルーブリック）、他者評価 ・パフォーマンス評価＋点数評価 ・ポートフォリオ評価、自己評価